

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	ひたちおおたし 常陸太田市	地区名	ひたちおおたしちゅうしんがいの 常陸太田市中心市街地	面積	370 ha
-------	-----	------	------------------	-----	-------------------------------	----	--------

計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度
------	---------------------	------	---------------------

### 目標

大目標: 新市の顔となる中心市街地の活性化

- ・目標1: 市民や来訪者の交流と活動を促進し、市民との協働による賑わいづくりと地域間ネットワークの核となる中心市街地を創出する。
- ・目標2: 地域住民が安心・安全・快適に暮らせる生活環境を創出する。

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

- ・中心市街地は、古くから県北地区の商業・行政・文化等の中心地として繁栄し、様々な機能が集積し多くの人々の交流の拠点となってきたが、「鯨ヶ丘」と呼ばれる狭隘な台地という地形に加え、近年のモータリゼーションの普及、ライフスタイルの変化等による近隣地域郊外への大規模小売店の進出、商業事業所の後継者不在、更には都市基盤整備の遅れ等により、かつての求心力が低下し、近年は商店数の減少とともに、商店街の空洞化が進んでいる。
- ・昭和63年には、市民の地域文化と交流の拠点とすべく「常陸太田市民交流センター」を整備し、優れた音響機能を活かした国内外のアーティストを招聘した芸術性の高い催しや、市民参加による様々な地域文化を展開し、中心市街地区の中の新たな拠点づくりを進めてきた。
- ・常陸太田市民交流センター周辺地区には、平成2年度には市立図書館を整備し、平成7年度からの総合計画においては、この地区を「市民文化創出拠点」とし、平成11年度の生涯学習センターの整備により、現在では3施設で年間40万人を超える交流と活動の一大拠点となっており、その中でも、市民交流センターは「核」となる施設として位置づけられている。
- ・また、市街地の整備を計画的及び効率的に進めるため、昭和61年に市街地整備基本計画を策定、平成5年には改定し、「高台の既存商店街地区(観光商業地区)」「駅前周辺地区(駅前広場商業地区)」「新規の商業地区(広域型複合商業(ばせお)及びその周辺地区)」を重点地区と位置付け、3地区が有機的に結びつき、相互に活性化を進めるべくトライアングル構想として、都市計画道路、街路、駐車場、公園、親水緑地等の整備を進めてきた。
- ・高台の既存商店街地区(鯨ヶ丘)は、店蔵、町家、神社仏閣、坂道、路地など歴史的資源が数多く残る地域特性を活かし、平成7年度に策定したHOPE計画では「人集う出会いの舞台」、平成10年度には街なみ環境整備方針を策定し「人と歴史の出会い路 ~ 行き交い路と集う舞台の演出 ~」をテーマに、路面の石畳等への美装化、小公園の整備、蔵等の歴史的建物の整備等に取り組んでいるところである。
- ・駅前周辺地区整備は、平成14年度に常陸太田駅前周辺整備計画を策定し、駅舎の改築を含めた本市の表玄関にふさわしい街並み形成や道路・公園・排水等の事業化を進めようとしたところ、平成17年3月で日立電鉄線が突然廃線になったため、計画を見直し、新たな計画により整備を進めようとしているところである。
- ・平成17年度には、本地区をエリアとした中心市街地活性化基本計画を策定し、市街地の整備改善と商業等の活性化を一体的に進めていく。

#### 課題

- ・急激に進む人口減少・少子高齢化の時代において、市の顔となる中心市街地の機能を再生し、市民や来訪者で賑わう環境づくりを創出することは喫緊の課題である。
- ・交流の玄関口となるべくJR常陸太田駅前には、駐車場やバスターミナルもないため、駅としての機能が活かされていない。
- ・中心市街地へのアクセスの一つとして重要な路線である市道について、既設舗装面や道路排水溝の排水勾配に不陸が発生しており、降雨時に車道部に水溜りができ、車両及び歩行者の安全な通行に支障をきたしている。
- ・また、JR常陸太田駅前には、交差点形状が複雑なため、交通負荷が大きい。
- ・高台の既存商店街(鯨ヶ丘)では、商店を廃業し、居宅としてそこに住む、いわゆるシャッター街が進み、商店街としての空洞化が進んでいる。
- ・本地区は、歴史的街並みが色濃く残る魅力ある地区であるが、市民や来訪者が回遊できる環境が整っていない。
- ・市民の交流の場となる空間が不足している。
- ・高台の既存商店街(鯨ヶ丘)は、狭隘な台地にあるため、車両は一方通行であり、また、駐車場も少ない。
- ・市域全体に、公共交通網が未整備なため、市民の日常生活や来訪者の足の確保が困難となっている。

#### 将来ビジョン(中長期)

- ・市総合計画の中で中心市街地は、「生活・文化拠点ゾーン」として位置付け、ゾーンのテーマを「歴史と文化の薫る、常陸太田の顔づくり」とし、市の商業・文化活動の拠点としての都市機能の集積と、良好な居住環境を創出する地区と位置づけられている。
- ・新市建設計画(合併まちづくり計画)の中では、文化創出拠点施設(市民交流センター、図書館、生涯学習センター)の拠点性の向上、商業機能の集積促進、鯨ヶ丘の街並みや特色ある「坂」を活用した景観形成、JR駅周辺の新市交流拠点としての整備等を進め、にぎわいとうるおいのあるまちづくりを進める地区として位置づけられている。
- ・市都市計画マスタープランでは、産業・業務施設の集積、観光施設のある交流拠点と、歴史ある市街地として、産業の振興とともに美しい街並みづくり、バリアフリーなどによる安心して暮らせるまちを目指し、「緑・歴史を感じられる広域交流拠点の形成」を進める地区として位置づけられている。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
中心市街地に関する満足度	%	市民アンケートによる当該地区の利便性や賑わいの満足度	当該地区を市民や来訪者の交流拠点とし、賑わいのある中心市街地として活性化を図ることで、市民の満足度を向上させる。	13.6	H17	30	H22
歩行者の通行量	人/10時間	中心市街地の中でも重点地区である常陽銀行太田支店前の歩行者数(平日9時~19時)	空き店舗の活用、交流の拠点となる公園整備、蔵等の歴史的街並みを活かした景観整備を進めることにより、市街地の歩行者が増加し、賑わいを増進する。(現在地の1.1倍を見込む)	600	H17	680	H22
市民バスの利用者数	人/年	市民生活の足や市街地への来訪者の足となる市民バスの利用者数	市民生活や来訪者の足となる公共交通網の整備を図ることにより、環境へも配慮しつつ、市街地への来訪者も増加し、地区の活性化が進む。(現在地より2,000人の増加を見込む)	45,000	H17	47,000	H22
JR常陸太田駅利用者数	人/日	JR常陸太田駅の利用者数	駅舎の改築を含めた本市の表玄関にふさわしい駅前周辺整備を進めることにより、駅を利用する市民や来訪者が増加し、賑わいのある駅前地区を創出する。	2,612	H17	3,260	H22